

## 令和4年8月熊野市教育委員会会議録

1. 日 時 令和4年8月25日(木) 午後4時00分から
2. 場 所 文化交流センター 交流ホール
3. 出席者 倉本教育長 根引委員、糸川委員、高見委員、北野委員
4. 事務局説明員  
雑賀総務課長、伴学校教育課長、水口社会教育課長補佐  
泉総務課庶務係長
5. 教育長報告
6. 議 事  
(議案第1号) 令和4年度熊野市教育費補正予算案について
7. その他  
令和4年度全国学力・学習状況調査結果(9月1日公表予定)  
について

### □開会(開会の宣言)

(教育長) 定刻になりましたので、令和4年8月熊野市教育委員会議を始めさせていただきます。事項書に沿って進めてまいります。

### □教育長報告

(教育長) 事項2報告、別紙をご覧ください。(経過報告、事件・事故等、今後の予定・その他について報告)

(教育長) それでは、報告に対しての質問を受け付けます。ありませんでしょうか。

(委 員) 新型コロナウイルス感染症に関する対応についてですけど、保護者の皆さん宛ての文書にも書いているとおり、マスクの着用についてなんですけど、登下校中はマスクを外すよう指示するとありますが、子ども達の意識はなかなか外すという意識になってない気がします。そういったところは指導していただけたらと思いますが、授業中はどのように対応していただいているのか確認の意味でお伺いします。

(事務局) マスクに関しては、感染対策としては一番有効な手段であることは間違いないという認識のもと、熱中症対策との兼ね合いでメリハリをつけてということで、昨日の校長会でも話をさせてもらっているところでは。

授業のなかでも体育のような一定の距離が取れて、会話も控えたりすることができる場面では、熱中症対策としてマスクを外すということで、指導するようお願いしております。

部活動等も基本的にはマスクを外してやっていくような方向で指導をお願いしております。

(教育長) その他ありませんでしょうか。

(委員) 8月9日の地域未来塾が12日までのが中止になって、22日からのオンラインというのは、最初からこの2つを計画されてたんでしょうか。

(事務局) 3クールを予定しておりましたが、第1クールと第2クールは対面で作る予定でしていたんですが、コロナ禍ということで中止としました。元々第3クールはオンラインで作る方向で考えておりました。それを今やっている状況です。

(委員) 今後コロナが収束してきて、来年、再来年とかも対面とオンラインと両方でやる予定なんですか。

(事務局) できればこういうハイブリッドの形でやっていきたいと考えております。あと、冬休みもまた予定をしていきたいんですけども、冬休みについては最初からオンラインで作る方向で進める方が、コロナウイルス感染症の感染状況に関係なく確実に行えますので、冬休みはオンラインでやろうと考えております。

(委員) わかりました。

(事務局) 一点よろしいでしょうか。今日も地域未来塾を実施したんですけども、参加者の子どもさんと、海外に祖父母がおられるお子さんがいるんですが、その子がオンラインの方に申し込んでいただいて、月曜日から参加してくれて、今日は木曜日なんですけど、今日僕らも知ってびっくりしたんですが、「実は私、今海外にいます」と聞いてびっくりしまして、話を聞くと、オンラインだから参加できると思って参加したということで、オンラインだと色んな可能性ができるんだなと改めて感じさせてもらったところであります。

(教育長) その他ありませんでしょうか。

(教育長) それでは、事項書の3、議事に入ってまいります。議案第1号令和4年度熊野市教育費補正予算案についてお願いします。

(事務局) (議案第1号令和4年度熊野市教育費補正予算案について提案)

(教育長) 議案第1号につきまして質問等ございませんでしょうか。

(委員) ありません。

(教育長) よろしいでしょうか。それでは、議案第1号令和4年度熊野市教育費補正予算案についてについて承認いただけますでしょうか。

(委員) はい。

(教育長) ありがとうございます。承認いただきました。事項4、報告 事務局

何かありますか。

(事務局) 特にありません。

(教育長) それでは、事項5 その他 令和4年度全国学力・学習状況調査結果（9月1日公表予定）についてお願いします。

(事務局)（令和4年度全国学力・学習状況調査結果（9月1日公表予定）について説明）

(教育長) ただいまの学力・学習状況調査結果の報告について、何かご質問等ございましたでしょうか。

(委員) 学校で授業中にPCやタブレットをどの程度使っていますかという項目で、熊野市は全国より低くなっていますよね。三重県の普及率というのは、全国的には上の方にあっただと思うんですけど、この資料からいくと、普及はしてるけど、使用が上手くできていないのかなと思うんですけど。

(事務局) 先ほども申しあげましたように、週に1回以上ICT機器を活用している割合ということになっています。委員おっしゃるとおり1人1台端末は揃っておりますが、学校間での差がありまして、使っている所は毎日使っている学校もあれば、週1回に満たない、パーセンテージで表れているとおり、40%に満たない状況となっているということが見えてきたところです。

(委員) 頻度が高い学校と低い学校というのは、どこらへんがそうなんですか。

(事務局) 小学校でいうと、どうしても担任の先生での差になっています。中学校でいうと、どちらかという教科での差になっています。どの学校も理科あたりは、かなり使っていただいているように感じています。

(委員) 理科は使いやすいんですね。

(事務局) 理科は、調べ学習や観察などでタブレットでそのまま撮影したりとか、データをそのまま入力したりとかできるので、比較的使いやすいんだと思います。実験したときのデータを皆で共有するのにも使いやすいですし。

英語に関しては学校間で差があるんですけど、国語なんかは先ほども申しあげましたとおり中々使う場面というのが少ないというのが現状です。

(委員) 私たちが学生の頃は、社会とかは先生が板書したものをひたすら写すみたいなの授業が多かったんですけど、そう考えると、社会なんかもデータでやりとりすれば、写すなんてこともなくなるのかなと思いますけど。

(事務局) 中学校の社会で見られるのは、調べ学習がしやすいということで、中

学校の社会は、入試でもそうなんですけど、データをもとにしてその考察を書かなければいけない問題が多くなってきています。記述式の問題が国語よりも多くなってきているのが現状ですので、そういったことへの対応として、データを色々と収集したりとか、それを皆で考察したりとかするような授業も一部、タブレットを使ってロイロノートなんかで行われていたりします。

(委員) わかりました。

(教育長) そのほかありませんでしょうか。

(教育長) よろしいでしょうか。それでは、これをもちまして、令和4年8月教育委員会会議を閉じさせていただきます。

次回は9月29日(木)午後4時からこの部屋、多目的ルームで実施いたします。どうぞよろしくお願いします。

ありがとうございました。